

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市と周辺に見られる絶滅危惧植物

33. ムカゴソウ（ラン科ムカゴソウ属）

Herminium lanceum (Thunb.) Vuijk var. *longicrurum* (Wright) Hara

2015年6月

丘陵地やため池土手のやや湿った草地に生育する多年草です。地下に2個の楕円球状の根があり、そこから茎が出ます。茎はやや細く、直立して高さ20～45cm、中部に3枚程度の葉を互生します。葉は線形～広線形で鋭尖頭、長さ8～20cm、幅5～10mmで基部は茎を抱きます。花は6～8月に長さ5～15cmの穂に淡緑色の小花を密につけます。花弁は2mm程で線状披針形、唇弁は下垂して長さ6～8mmで中央まで3裂し、側裂片は線形で長く、中裂片は突起状で非常に短く、距はありません。兵庫県版レッドデータブック2010の Bランク、近畿版レッドデータブック2001のAランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはENランクに位置する非常に希少な種類です。当地域では凝灰岩が露出する丘陵地で、イシモチソウやイガクサなどに混じって生育しています。分布は北海道西南部、本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、台湾、中国です。和名は地中の多肉根をむかごに見立てたところからです。



丘陵地に生育するムカゴソウ



ため池堤体に生育するムカゴソウ